2024年度成人科テキスト

月刊「ぶどうの木」

１１月号

わたしは生い茂るオリーブの木。
神の家にとどまります。
世々限りなく、神の慈しみに依り頼みます。
(詩編52：10)

名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

目次

「わすれられないおくりもの」　・・・2
宇佐美　典子姉

解説・エレミヤ書②　・・・3

第３１課「回復の預言」　・・・5
ショートメッセージ：田中由記子姉　聖書日課：工藤征治兄

第３２課「一人ひとりに新しい契約を」　・・・9
ショートメッセージ：郷健人兄　聖書日課：宇佐美典子姉

第３３課「永遠の契約を結ぶ」　・・・１３
ショートメッセージ：栗山義亜兄　聖書日課：渡部和子姉

第３４課「正義の若枝が生え出でる」　・・・１７
ショートメッセージ：郷秀男兄　聖書日課：小沢敬一兄

表紙イラスト：友納聖子姉

おしらせ

- 成人科は毎週日曜日　10：15～50　地下フェロシップホールにて行っています。ぜひご出席ください。

- ショートメッセージの動画は、教会ホームページからも視聴できます。
上部メニューから「教会学校」をクリック→「成人科」をクリック

- ショートメッセージと聖書日課を、メールで受け取ることができます。
ご希望の方は成人科奉仕者（ショートメッセージ、聖書日課の執筆者）にお声がけください。

- 「ぶどうの木」のボックスへの配布をご希望される方も、奉仕者までお知らせください。

今月の讃美歌
「エレミヤ２９：１１」

わたしは　あながたのために　立てている

計画をよく知っているからだ

それは災いではなくて

平安を与える計画であり

あなたがたに　将来と　希望を与える

ためのものだ

「わすれられないおくりもの」

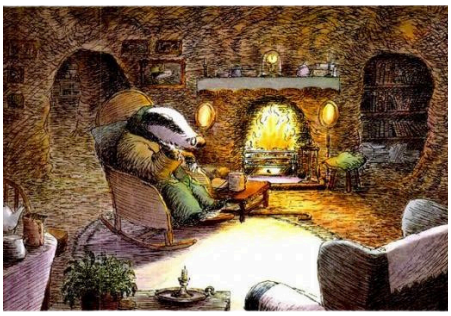
宇佐美　典子

スーザン・バーレイという絵本作家の「わすれられないおくりもの」という絵本を紹介します。たかが子ども向けの絵本と侮ることなかれ。大人が読んでも深い感動を受ける一冊です。

賢くて、いつもみんなに頼りにされているアナグマは、大変歳をとっていて自分の命が間もなく終わることを知っていました。アナグマは死ぬことを恐れてはいません。ただ残していく友だちのことがとても気がかりでした。いつかその時が来てもあまり悲しまないようにと前もって伝えていました。そして冬が来る前に眠るように死んでしまいます。森のみんなはアナグマの「長いトンネルの　むこうに行くよ　さようなら　アナグマより」という手紙を読み悲しみに暮れます。誰にもやさしく丁寧に接し、みんなから信頼される存在だったアナグマ。突然のお別れにとまどった森の動物たちは、はじめはアナグマの死を受け入れられませんでした。しかしアナグマとの思い出をみんなで語り合ううちに、彼が宝物となるような知恵や工夫を残してくれたことに気付きます。アナグマが残してくれたものへの感謝の気持ちを分かち合いながら、春が来る頃には、アナグマのことは楽しい思い出へと変わっていきました。

身近な人の死とどう向き合ったらいいのか、亡くなった人のことをどう思っていったらいいのかを、子どもたちにもわかりやすく描いています。そしてアナグマの死を通して愛情や友情、知恵を継承していくことの大切さ、それぞれの生き方などを考えさせられます。それと同時に「おくりもの」は、形あるもの・高価なものをイメージしがちですが、目に見えないもの・形のないものでも誰かを幸せにするものがあると改めて気づかされます。

私はアナグマがイエスさまに似ていると思いました。自分がいなくなった後、残された弟子たちが自分の言葉を思い出し、しっかり生きていくことを願い、たくさんの知恵を教えていかれた主。そしてご自分に代わって聖霊を与えてくださいましたよね。弟子たちを愛して、最後まで愛し抜かれたイエスさまのお姿とアナグマの姿が重なって見えたのです。
神さまが私たちにくださった最大・最高・最上の「おくりもの」はイエスさまです。神のひとり子イエス・キリストをこの地上に下し、この方によってすべての人は希望を持って、生きられるようになったのです、と聖書は語っています。今年のクリスマスもイエスさまのご降誕を共に喜び分かち合うことができますように…。



解説・エレミヤ書②

【預言者ホセアとエレミヤ】

預言者ホセアは北イスラエルの滅亡(前721年)の少し前まで約30年間、預言を続けた北イスラエルの預言者です。彼はエレミヤのような明確な召命体験はなく、出自も身分もわからず恐らくは農業に従事していたと考えられています。ホセアは人の内面に語りかける預言者でした。ただひたすら真実で不変の神の愛を説き、偶像礼拝の民が真の愛なる神に立ち帰るように勧めました。北イスラエルの政治的混乱は真実な神を忘れ、知識を欠いた結果の罪ゆえに神の審判は下されるが神の不変の愛ゆえに再び神の民として救済回復されると民に希望を与えたのです。

エレミヤ31:3
遠くから、主はわたしに現れた。わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し 変わることなく慈しみを注ぐ。

エレミヤはホセアの知らせた神の愛を、さらに深めて告げていきます。神は低きに降り預言者と言葉を交わされる人間に近い存在であると同時に、真の神は天と地に満ちておられる神であると告げます。

エレミヤ23:23～24
わたしはただ近くにいる神なのか、と主は言われる。わたしは遠くからの神ではないのか。誰かが隠れ場に身を隠したなら わたしは彼を見つけられないと言うのかと 主は言われる。天をも地をも、わたしは満たしているではないかと 主は言われる。

それゆえに、たとえ契約の箱が失われ、神殿が破壊されて、国が滅び他国に従属したとしても真の神の存在は揺るがない。主なる神の存在には関係しない。天地に満つる主なる神は人の心・内面をも慈しみをもって見守られるお方であると告げます。ゆえに人は主なる神に見られないように密やかに身を隠すことなど出来ない存在なのです。エレミヤは神の裁き、審判の先には回復の希望があると告げます。

【契約の箱】

エレミヤ3:16
あなたたちがこの地で大いに増えるとき、その日には、と主は言われる。人々はもはや、主の契約の箱について語らず、心に浮かべることも、思い起こすこともない。求めることも、作ることももはやない。

バビロンのネブカドネツァル王が契約の箱を安置していたエルサレムの神殿を破壊(前586年)してから所在不明となりました。契約の箱の消失については今日まで諸説あって映画や小説がさまざまな仮説を提示しています。

エレミヤの預言によれば、救い主(メシヤ)が来られる時代になれば神ご自身が臨在なさるので契約の箱の在りかには誰も関心を寄せることはなくなる。だから、契約の箱の在りかを探すことはほとんど意味のないことだと言っているのです。

第31課 回復の預言 30:1～3、18～22

- **その日**　神の審判の後にくる回復の終末的希望を指す
- **わたしが彼を近づける**　民を導く者はイスラエルの民自身から起きて、もはや異邦人の王には仕えなくなる。

第32課 一人ひとりに新しい契約を 31:27～34

- **人は自分の罪のゆえに死ぬ**　その日には、罪の責任は自分自身が負うべきものであると知る。
- **新しい契約**　神の約束は石の板に書かれた外側からの啓示でなく、人々の胸の内に刻まれて神の愛に包まれた救済の契約となる
- **主を知れ**　神を忘れ、知らずに罪の奴隷となることからの解放された者どうしは「主を知れ」と教え合うことはない。

第33課 永遠の契約を結ぶ 32:36～44

- **獄舎**　バビロンには征服されるので抵抗しても勝ち目はないので降伏するように預言したエレミヤをゼデキヤ王は王の宮殿の牢に拘留した。実際は軟禁状態のようである程度は自由があったようです。
- **回復の約束**　神に反逆し、偶像礼拝に陥り、悪を重ねた民を罰し、裁かれた民が滅びようとしていることを神は嘆かれた。その罪を裁かれた神が、その怒りをやめて愛をもって回復を約束された。
- **畑を買うようになる**　不信の罪により南ユダは滅亡寸前ではあるが、やがては回復の時を備えて神の民が戻って畑や土地が買われるような日がくることを神の預言として語った。

第34課 正義の若枝が生え出ずる 33:1～3、10～16

- **知らない、隠された大いなること**　失われた全イスラエルの回復
- **正義の若枝**　時に至らば、ダビデの家系から正義の王(救い主・メシア)が起こされる。

参考図書

「新聖書購解シリーズ　エレミヤ書・哀歌」1989年　いのちのことば社
「旧約聖書略解」1978年　日本基督教団出版局
「バイブルガイド」マイク・ボーマント　2015年　いのちのことば社
「バイブルワールド」ニック・ペイジ　2016年　いのちのことば社
「新聖書ハンドブック」ヘンリー・H・ハーレイ　2023年　いのちのことば社

（文責・郷秀男）

第３１課　回復の預言

聖書箇所：エレミヤ書３０章１－３，１８－２２節
主題聖句：こうして、あなたたちはわたしの民となり、
　　わたしはあなたたちの神となる。（22節）

1主からエレミヤに臨んだ言葉。
2「イスラエルの神、主はこう言われる。わたしがあなたに語った言葉をひとつ残らず巻物に書き記しなさい。 3見よ、わたしの民、イスラエルとユダの繁栄を回復する日が来る、と主は言われる。主は言われる。わたしは、彼らを先祖に与えた国土に連れ戻し、これを所有させる。」

18主はこう言われる。
見よ、わたしはヤコブの天幕の繁栄を回復し
その住む所を憐れむ。
都は廃虚の丘の上に建てられ
城郭はあるべき姿に再建される。
19そこから感謝の歌と
楽を奏する者の音が聞こえる。
わたしが彼らを増やす。数が減ることはない。
わたしが彼らに栄光を与え、侮られることはない。
20ヤコブの子らは、昔のようになり
その集いは、わたしの前に固く立てられる。
彼らを苦しめるものにわたしは報いる。
21ひとりの指導者が彼らの間から
治める者が彼らの中から出る。
わたしが彼を近づけるので
彼はわたしのもとに来る。
彼のほか、誰が命をかけて
わたしに近づくであろうか、と主は言われる。
22こうして、あなたたちはわたしの民となり
わたしはあなたたちの神となる。

11月になりました。今月学ぶ予定のエレミヤ書30章から33章は、「慰めの書」と呼ばれています。神の裁きにより、北イスラエル王国だけでなく、南ユダ王国も滅びることを人々に告げたエレミヤは、一転して、イスラエルの回復を預言します。滅びる前に回復を預言しているのです。

み言葉を聞かず、神さまから離れてしまった人々に対して、神さまは裁きを与えられましたが、裁いて、滅ぼすことが目的だったのではありません。人々が自分たちの罪に気づいて、神さまに立ち帰り、再び神さまとの契約を結ぶことを望んでおられたのです。そして、それは、神さまが初めから立てておられた計画でした。

わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。
それは平和の計画であって、災いの計画ではない。
将来と希望を与えるものである。 29章11節

本日の聖書箇所の少し前にあるこのみ言葉は、コロナ禍の2021年度の常盤台教会の年間聖句です。
なぜこのような病が蔓延するのか、私たちの生活はどうなるのか、皆で集まって礼拝できるようになる日は来るのか…など、不安でいっぱいだった私たちは、このみ言葉に勇気づけられ、今は苦しくても、その先に祝福が約束されていることを信じて、日々過ごしていました。

18節からはイスラエルの回復が具体的に告げられます。
ヤコブの天幕の繁栄は回復され、都は廃墟の丘の上に建てられ、城郭はあるべき姿に再建される。そして、そこから感謝の歌と楽を奏する者の音が聞こえる、と。
実際に、バビロン捕囚から帰還した人々は、神殿を再建し、完成した時には、感謝の賛美をささげています。

さあ、わたしがお前の傷を治し　打ち傷をいやそう、と主は言われる。(17節)

わたしが彼らを増やす。数が減ることはない、
わたしが彼らに栄光を与え、侮られることはない。(19節)

これらのみ言葉からわかるように、この回復は人々の努力ではなく、回復を願う神さまによってなされるのです。

そして、本日のクライマックスです。

ひとりの指導者が彼らの間から
治める者が彼らの中から出る。(21節)

この指導者は神さまと民とを結ぶ役割を担います。命を懸けてその役割を担ってくださるのは他ならぬイエス・キリストです。イエス・キリストによって、私たちの罪は赦され、神さまとの関係が回復されるのです。

あなたたちはわたしの民となり、わたしはあなたたちの神となる。(22節)

これは、決して、神さまとイスラエルの民との間のことだけではありません。ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もなく、世界中のすべての人々と契約を結んでくださるのです。様々な雑事に心を奪われて、神さまから心が離れてしまったとしても、その罪に気づき、神さまに立ち帰る時、喜んでその関係を回復してくださいます。
神さまとの新しい契約は神さまからの一方的な恵みによるものですが、神さまとの関係は決して一方通行ではありません。また、私たちをひとまとめにするのではなく、一人ひとりと関係を結んでくださるのが私たちの神さまです。
弱い私たちですが、神さまに立ち帰ることを忘れず、神さまが私たち一人ひとりに与えてくださる恵みに応答しつつ、歩んでまいりましょう。

～分かち合い～

- **あなたはどのような時に神さまとの契約を忘れてしまいますか？**
- **神さまに立ち帰ることで、新しい契約を結んでいただいた経験を思い出してみましょう。**

今週の聖書日課

１１月４日（月）　エレミヤ書２４章１－７節

1主がわたしに示された。見よ、主の神殿の前に、いちじくを盛った二つの籠が置いてあった。それは、バビロンの王ネブカドレツァルが、ユダの王、ヨヤキムの子エコンヤ、ユダの高官たち、それに工匠や鍛冶をエルサレムから捕囚としてバビロンに連れて行った後のことであった。 2一つの籠には、初なりのいちじくのような、非常に良いいちじくがあり、もう一つの籠には、非常に悪くて食べられないいちじくが入っていた。
3主はわたしに言われた。「エレミヤよ、何が見えるか。」 わたしは言った。
「いちじくです。良い方のいちじくは非常に良いのですが、悪い方は非常に悪くて食べられません。」
4そのとき、主の言葉がわたしに臨んだ。
5「イスラエルの神、主はこう言われる。このところからカルデア人の国へ送ったユダの捕囚の民を、わたしはこの良いいちじくのように見なして、恵みを与えよう。 6彼らに目を留めて恵みを与え、この地に連れ戻す。彼らを建てて、倒さず、植えて、抜くことはない。 7そしてわたしは、わたしが主であることを知る心を彼らに与える。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。彼らは真心をもってわたしのもとへ帰って来る。

「今まさにひどい状況に…」とは。エレミヤは、BC7～6世紀頃南ユダ王国がバビロニアに滅ぼされる直前の預言者で、ユダヤ国内の背信状況と、近隣諸国の情勢を熟知していたのでしょう。

１１月５日（火）　エレミヤ書３０章４－７節

4次の言葉は、イスラエルとユダについて、主が語られたものである。
5主はこう言われる。 戦慄の声を我々は聞いた。 恐怖のみ。平和はない。
6尋ねて、見よ　男が子を産むことは決してない。 どうして、わたしは見るのか
男が皆、子を産む女のように　　腰に手を当てているのを。 だれの顔も土色に変わっている。
7災いだ、その日は大いなる日　　このような日はほかにはない。
ヤコブの苦しみの時だ　　しかし、ヤコブはここから救い出される。

世襲制の南ユダ王国の歴代王達の殆どは統治能力がなく、バビロニア軍に包囲され、どん底状態にある中、エレミヤはユダヤ教の神ヤーウェを信ぜよ、人々を鼓舞しました。

１１月６日（水）　エレミヤ書３０章１０－１１節

10わたしの僕ヤコブよ、恐れるなと　主は言われる。
イスラエルよ、おののくな。
見よ、わたしはお前を遠い地から　お前の子孫を捕囚の地から救い出す。
ヤコブは帰って来て、安らかに住む。 彼らを脅かす者はいない。
11わたしがお前と共にいて救うと　主は言われる。
お前が散らされていた国々を　わたしは滅ぼし尽くす。
しかし、お前を滅ぼし尽くすことはない。
わたしはお前を正しく懲らしめる。
罰せずにおくことは決してない。

南ユダ王国のユダヤ人達は、自分達の神ヤーウェを信ぜず、バビロニア軍に対する準備さえしていない事に対して、神は「わたしはお前を正しく懲らしめる」と語ります。

１１月７日（木）　エレミヤ書３１章１－６節

1そのときには、と主は言われる。わたしはイスラエルのすべての部族の神となり、彼らはわたしの民となる。
2主はこう言われる。
民の中で、剣を免れた者は　荒れ野で恵みを受ける
イスラエルが安住の地に向かうときに。
3遠くから、主はわたしに現れた。
わたしは、とこしえの愛をもってあなたを愛し　変わることなく慈しみを注ぐ。
4おとめイスラエルよ
再び、わたしはあなたを固く建てる。 再び、あなたは太鼓をかかえ　楽を奏する人々と共に踊り出る。
5再び、あなたは　サマリアの山々にぶどうの木を植える。 植えた人が、植えたその実の初物を味わう。
6見張りの者がエフライムの山に立ち　呼ばわる日が来る。
「立て、我らはシオンへ上ろう　我らの神、主のもとへ上ろう。」

エレミヤは、出エジプトの荒れ野での40年間を、苦難だけでなく恵みをも体験、と言っています。社会は子供たちを苦難を乗り越えられる丈夫な身体を作り、その苦難の経験が、その後の人生に役立ちます。

１１月８日（金）　エレミヤ書３１章７－９節

7主はこう言われる。
ヤコブのために喜び歌い、喜び祝え。 諸国民の頭のために叫びをあげよ。
声を響かせ、賛美せよ。そして言え。
「主よ、あなたの民をお救いください　イスラエルの残りの者を。」
8見よ、わたしは彼らを北の国から連れ戻し　地の果てから呼び集める。
その中には目の見えない人も、歩けない人も　身ごもっている女も、臨月の女も共にいる。
彼らは大いなる会衆となって帰って来る。
9彼らは泣きながら帰って来る。 わたしは彼らを慰めながら導き　流れに沿って行かせる。
彼らはまっすぐな道を行き、つまずくことはない。 わたしはイスラエルの父となり
エフライムはわたしの長子となる。

エレミヤはユダヤ教の神ヤーウェだけを信じれば、何が正しい選択なのかを知り、ユダヤ人の国は存続すると、人々に熱く語ります。

１１月９日（土）　エレミヤ書３１章２３－２６節

23イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。
わたしが彼らの繁栄を回復するとき、ユダとその町々で人々は、再びこの言葉を言うであろう。
「正義の住まうところ、聖所の山よ　主があなたを祝福されるように。」
24ユダとそのすべての町の民がそこに共に住む。農民も、群れを導く人々も。 25わたしは疲れた魂を潤し、衰えた魂に力を満たす。
26ここで、わたしは目覚めて、見回した。それはわたしにとって、楽しい眠りであった。

エレミヤの夢は「正義の住まうところ」なる神殿の丘に共に住む、事でした。約2000年の間、世界に散らばったユダヤ民族は、1948年にイスラエル国(State of Israel)を建国し、エルサレムを首都としました。しかし現在は、中東紛争が激化しています。イエスさまの平和共存を願います。

第３２課　一人ひとりに新しい契約を

聖書箇所：エレミヤ書３１章２７－３４節

主題聖句：その日には、人々はもはや言わない。「先祖が酸いぶどうを食べれば子孫の歯が浮く」と。（２９節）

27見よ、わたしがイスラエルの家とユダの家に、人の種と動物の種を蒔く日が来る、と主は言われる。 28かつて、彼らを抜き、壊し、破壊し、滅ぼし、災いをもたらそうと見張っていたが、今、わたしは彼らを建て、また植えようと見張っている、と主は言われる。
29その日には、人々はもはや言わない。
「先祖が酸いぶどうを食べれば
子孫の歯が浮く」と。
30人は自分の罪のゆえに死ぬ。だれでも酸いぶどうを食べれば、自分の歯が浮く。
31見よ、わたしがイスラエルの家、ユダの家と新しい契約を結ぶ日が来る、と主は言われる。
32この契約は、かつてわたしが彼らの先祖の手を取ってエジプトの地から導き出したときに結んだものではない。わたしが彼らの主人であったにもかかわらず、彼らはこの契約を破った、と主は言われる。 33しかし、来るべき日に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこれである、と主は言われる。すなわち、わたしの律法を彼らの胸の中に授け、彼らの心にそれを記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。 34そのとき、人々は隣人どうし、兄弟どうし、「主を知れ」と言って教えることはない。彼らはすべて、小さい者も大きい者もわたしを知るからである、と主は言われる。わたしは彼らの悪を赦し、再び彼らの罪に心を留めることはない。

今日の箇所で最初に意識が行くのは「先祖が酸いぶどうをたべれば、自分の歯が浮く」の箇所ではないでしょうか。この言葉は親や先祖のした悪い行いのせいで子孫が辛い目にあうことを表しており、日本語の慣用句に置き換えれば「親の因果が子に報いる」が当てはまるかもしれません。エレミヤの預言を通して、神さまからの警告や民全体に降りかかる苦難を聞いた人々の中には、これらの原因の全て、或いは大半を「先祖たちの行いのせい」と考える者がいたのでしょう。その思いは当然、「なぜ自分たちがそんな目に。自分たちは（全く、或いはそれほど）悪いことをしてないのに」という不平不満にも繋がったと思われます。

そんなこと考えてるから神さまに怒られるんだよ！とも指摘したくなるところですが、私たちも同じ立場に置かれたら同じことを思うかもしれません。そもそも、先月も触れた通り身分の上下を問わず民全体が神から離れた生活をしており、指導者たちも真摯に使命を果たそうとしないのが当時の現実でした。言わば「間違った状態が普通」となっている人々にとって、自分たちが正しく生きられていないならば、それはそのような社会にした先祖たちに原因がある・・・と考えても不思議ではありません。

しかし、そのような思いの中で真の悔い改めに至ることはできません。本日の箇所は先週に引き続いて「慰めの書」の一部です。主によってイスラエルが回復する時には、人々は「先祖のせい」「なぜ私が」とは言わなくなると主は語られています。これを、「先祖のせい」「なぜ私が」と言わなくなった時にこそ、イスラエルの回復が成就すると理解することも、出来るように思います。

私がそう考えたのは、２年前の成人科でダニエル書を取り上げた時のことを思い出したからです。16歳ぐらいの時にバビロン捕囚によって南ユダ王国から連れてこられたダニエルは、エレミヤの預言の通り70年ほどをその地で過ごし老年を迎えたころに、主に向かって力強く祈りました。

わたしたちは罪を犯し悪行を重ね、背き逆らって、あなたの戒めと裁きから離れ去りました。あなたの僕である預言者たちが、御名によってわたしたちの王、指導者、父祖、そして地の民のすべてに語ったのに、それに聞き従いませんでした。(ダニエル9：5-6)

長く続くこの祈りは、常に主語を「わたしたち」としています。「わたし」でもなければ「あの人たち」でもなく、「わたしたち」なのです。ダニエル自身は70年を経ても神への信仰を失わないくらいに正しい人でしたが、それでも自分自身と、同じ時代を生きる者と、そして先祖たち全てを繋げ、民全体の罪を我が事として、「わたしたち」と言っているのです。

今の世界を見渡す時、とてもこれを神さまが喜ばれているとは思えないような、数々の悲劇が存在しています。特に、争いを終える気のない権力者、あるいはそれを支持する人々に思いを馳せる時、どうか主が彼らの心を変えて下さいますように、彼らが神に従う生き方を選べますように、等と祈りたくなる自分がいます。その祈りが間違っているとまでは思いませんが、どこか「自分」と「彼ら」を切り離しているのも事実です。他ならぬ私自身が罪人なのですから、たとえ戦争や犯罪に直接的に加担していなかったとしても、今この世界に存在する数々の過ちは全て、「彼ら」ではなく「わたしたち」のものと受け止めたいと、思わされました。それができなければ、エレミヤを通して神さまが戒められた民の姿と、ほとんど変わらないのだと思います。

31節以降で、神さまが「新しい契約を結ぶ」と告げられたのは、正に一人ひとりの民が「誰かの過ち」ではなく「自分の過ち」に気付き、神の前に正しく生まれ変わるためだったのではないでしょうか。十戒のように石に刻むのではなく、一人ひとりの心に神さまとのお約束、律法が刻まれるのです。今までよりもぐっと神さまが近く感じられたことでしょう。そして長い時を経て、律法を完成させるお方、イエスさまが遣わされたことで、いよいよ私たちと神さまの関係は新たなものとなるのです。イエスさまが来られた後の時代を生きる私たちが、捕囚前の民の姿に戻るわけにはいきません。「わたし」と「わたしたち」の過ちから目を背けることなく、愛なる主に従ってまいりたいと思います。

～分かち合い～

- **自分の生活や、周りを見渡した時に「間違った状態が当たり前」になっていることは、あるでしょうか。**
- **「わたしたち」が主の前に悔い改めるために、「わたし」に出来ることは何でしょうか。**

今週の聖書日課

１１月１１日（月）　ホセア書２章２０－２５節

20その日には、わたしは彼らのために　野の獣、空の鳥、土を這うものと契約を結ぶ。
弓も剣も戦いもこの地から絶ち　彼らを安らかに憩わせる。
21わたしは、あなたとともしえの契りを結ぶ。 わたしは、あなたと契りを結び
正義と公平を与え、慈しみ憐れむ。
22わたしはあなたとまことの契りを結ぶ。 あなたは主を知るようになる。
23その日が来れば、わたしはこたえると　主は言われる。
わたしは天にこたえ　天は地にこたえる。
24地は、穀物と新しい酒とオリーブ油にこたえ
それらはイズレエル（神が種を蒔く）にこたえる。
25わたしは彼女を地に蒔き　ロ・ルハマ（憐れまれぬ者）を憐れみ
ロ・アンミ（わが民でない者）に向かって 「あなたはアンミ（わが民)」と言う。
彼は、「わが神よ」とこたえる。

イスラエルの回復の預言が語られています。約束の地に種が蒔かれ(イズレエル）、それが豊かに実るようになり、憐れまれぬ者（ロ・ルハマ）が憐れまれ（ルハマ）、わが民でない者（ロ・アミ）が、わが民（アンミ）と呼ばれるようになると。どんな人にも希望があると語っています。

１１月１２日（火）　創世記２章４－７節

4これが天地創造の由来である。主なる神が地と天を造られたとき、 5地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。
6しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。 7主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

私たちは自分で息をして生きていると思っていますが、神に息を吹き入れられたので日々を生かされているのです。土の塵から作られた弱い存在でしたが、神の息と神の恵みによって尊い存在とされたことに感謝し、やがてまた土に帰るときまで、与えられた日々を大切に生きることが私たちの務めではないでしょうか。

１１月１３日（水）　エゼキエル書１８章１－４節

1主の言葉がわたしに臨んだ。 2「お前たちがイスラエルの地で、このことわざを繰り返し口にしているのはどういうことか。
『先祖が酸いぶどうを食べれば　子孫の歯が浮く』と。
3わたしは生きている、と主なる神は言われる。お前たちはイスラエルにおいて、このことわざを二度と口にすることはない。 4すべての命はわたしのものである。父の命も子の命も、同様にわたしのものである。罪を犯した者、その人が死ぬ。

エゼキエルは、イスラエル国家も民族もすべて滅びてしまう危機に直面して、もはや先祖が悪いというような他に責任を問う昔ながらの考え方では、問題の解決はないとみました。一人ひとりが神の前で罪を悔い改めて、立ち帰ることが大切だ、と今日の私たちにも教えてくれています。

１１月１４日（木）　列王記下２５章１－２１節

1ゼデキヤの治世第九年の第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネツァルは全軍を率いてエルサレムに到着し、陣を敷き、周りに堡塁を築いた。 2都は包囲され、ゼデキヤ王の第十一年に至った。 3その月の九日に都の中で飢えが厳しくなり、国の民の食糧が尽き、 4都の一角が破られた。カルデア人が都を取り巻いていたが、戦士たちは皆、夜中に王の園に近い二つの城壁の間にある門を通って逃げ出した。王はアラバに向かって行った。 5カルデア軍は王の後を追い、エリコの荒れ地で彼に追いついた。王の軍隊はすべて王を離れ去ってちりぢりになった。 6王は捕らえられ、リブラにいるバビロンの王のもとに連れて行かれ、裁きを受けた。 7彼らはゼデキヤの目の前で彼の王子たちを殺し、その上でバビロンの王は彼の両眼をつぶし、青銅の足枷をはめ、彼をバビロンに連れて行った。
8第五の月の七日、バビロンの王ネブカドネツァルの第十九年のこと、バビロンの王の家臣、親衛隊の長ネブザルアダンがエルサレムに来て、 9主の神殿、王宮、エルサレムの家屋をすべて焼き払った。大いなる家屋もすべて、火を放って焼き払った。 10また親衛隊の長と共に来たカルデア人は、軍をあげてエルサレムの周囲の城壁を取り壊した。 11民のうち都に残っていたほかの者、バビロンの王に投降した者、その他の民衆は、親衛隊の長ネブザルアダンによって捕囚とされ、連れ去られた。 12この地の貧しい民の一部は、親衛隊の長によってぶどう畑と耕地にそのまま残された。

13カルデア人は主の神殿の青銅の柱、台車、主の神殿にあった青銅の「海」を砕いて、その青銅をバビロンへ運び去り、 14壺、十能、芯切り鋏、柄杓など、祭儀用の青銅の器をことごとく奪い取った。 15また親衛隊の長は、火皿、鉢など、金製品も銀製品もすべて奪い取った。 16ソロモンが主の神殿のために作らせた二本の柱、一つの「海」、台車についていえば、これらすべてのものの青銅の重量は量りきれなかった。 17一本の柱の高さは十八アンマで、その上に青銅の柱頭があり、その柱頭の高さが三アンマ、柱頭の周りには格子模様の浮き彫りとざくろがあって、このすべてが青銅であった。もう一本の柱も格子模様の浮き彫りまで同様に出来ていた。
18親衛隊の長は、祭司長セラヤ、次席祭司ツェファンヤ、入り口を守る者三人を捕らえた。 19また彼は、戦士の監督をする宦官一人、都にいた王の側近五人、国の民の徴兵を担当する将軍の書記官、および都にいた国の民六十人を都から連れ去った。 20親衛隊の長ネブザルアダンは彼らを捕らえて、リブラにいるバビロンの王のもとに連れて行った。 21バビロンの王はハマト地方のリブラで彼らを打ち殺した。こうしてユダは自分の土地を追われて捕囚となった。

イスラエルが混乱の中にあり神殿の崩壊も迫る中、エレミヤは、二枚の石板に記された神とイスラエルの契約から、人の心に記される新しい契約を一人ひとりが神と結び直さなければならないと確信し、人々に熱心に語り続けました。

１１月１５日（金）　エレミヤ書３２章１－５節

1主からエレミヤに臨んだ言葉。ユダの王ゼデキヤの第十年、ネブカドレツァルの第十八年のことであった。 2そのとき、バビロンの王の軍隊がエルサレムを包囲していた。預言者エレミヤは、ユダの王の宮殿にある獄舎に拘留されていた。 3ユダの王ゼデキヤが、「なぜ、お前はこんなことを預言するのか」と言って、彼を拘留したのである。
エレミヤの預言はこうである。
「主はこう言われる。見よ、わたしはこの都をバビロンの王の手に渡す。彼はこの町を占領する。 4ユダの王ゼデキヤはカルデア人の手から逃げることはできない。彼は必ずバビロンの王の手に渡され、王の前に引き出されて直接尋問される。 5ゼデキヤはバビロンへ連行され、わたしが彼を顧みるときまで、そこにとどめ置かれるであろう、と主は言われる。お前たちはカルデア人と戦っても、決して勝つことはできない。」

エレミヤの真意は人々に伝わらず、激しい迫害を受けその後、投獄されます。しかし神への信頼を貫き通したエレミヤが涙で語る真実の預言は全く新しい驚くべきメッセージでした。それは新しい契約と呼ばれ、神の赦しと憐れみと希望に満ちた愛の契約だったのです。

１１月１６日（土）　エレミヤ書３２章６－１５節

6さて、エレミヤは言った。「主の言葉がわたしに臨んだ。 7見よ、お前の伯父シャルムの子ハナムエルが、お前のところに来て、『アナトトにあるわたしの畑を買い取ってください。あなたが、親族として買い取り、所有する権利があるのです』と言うであろう。」
8主の言葉どおり、いとこのハナムエルが獄舎にいるわたしのところに来て言った。「ベニヤミン族の所領に属する、アナトトの畑を買い取ってください。あなたに親族として相続し所有する権利があるのですから、どうか買い取ってください。」
わたしは、これが主の言葉によることを知っていた。 9そこで、わたしはいとこのハナムエルからアナトトにある畑を買い取り、銀十七シェケルを量って支払った。 10わたしは、証書を作成して、封印し、証人を立て、銀を秤で量った。 11そしてわたしは、定められた慣習どおり、封印した購入証書と、封印されていない写しを取って、 12マフセヤの孫であり、ネリヤの子であるバルクにそれを手渡した。いとこのハナムエルと、購入証書に署名した証人たちと、獄舎にいたユダの人々全員がそれを見ていた。 13そして、彼らの見ている前でバルクに命じた。
14「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。これらの証書、すなわち、封印した購入証書と、その写しを取り、素焼きの器に納めて長く保存せよ。 15イスラエルの神、万軍の主が、『この国で家、畑、ぶどう園を再び買い取る時が来る』と言われるからだ。」

バビロンがエルサレムを包囲してイスラエルが大混乱に陥る真っ最中に畑を購入したエレミヤ。土地を買うのに最適な時とは言えないと私たちは思いますが、神は必ず民をこの地に戻してくださる、という未来における信仰を宣言するための預言的な行いでした。

第３３課　永遠の契約を結ぶ

聖書箇所：エレミヤ書３２章３６－４４節（参照３２章１－１５節）
主題聖句：わたしは彼らに恵みを与えることを喜びとし、心と思いを込めて確かに彼らをこの土地に植える。

36しかし今や、お前たちがバビロンの王、剣、飢饉、疫病に渡されてしまったと言っている、
この都について、イスラエルの神、主はこう言われる。
37「かつてわたしが大いに怒り、憤り、激怒して、追い払った国々から彼らを集め、この場所
に帰らせ、安らかに住まわせる。 38彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。 39わ
たしは彼らに一つの心、一つの道を与えて常にわたしに従わせる。それが、彼ら自身とその子孫
にとって幸いとなる。 40わたしは、彼らと永遠の契約を結び、彼らの子孫に恵みを与えてやま
ない。またわたしに従う心を彼らに与え、わたしから離れることのないようにする。 41わたし
は彼らに恵みを与えることを喜びとし、心と思いを込めて確かに彼らをこの土地に植える。 42
まことに、主はこう言われる。かつて、この民にこの大きな災いをくだしたが、今や、彼らに約
束したとおり、あらゆる恵みを与える。 43この国で、人々はまた畑を買うようになる。それは
今、カルデア人の手に渡って人も獣も住まない荒れ地になる、とお前たちが言っているこの国に
おいてである。 44人々は銀を支払い、証書を作成して、封印をし、証人を立てて、ベニヤミン
族の所領や、エルサレムの周辺、ユダの町々、山あいの町々、シェフェラの町々、ネゲブの町々
で畑を買うようになる。わたしが彼らの繁栄を回復するからである、と主は言われる。」

エレミヤがこの言葉をユダの王ゼデキヤに語った場面は南ユダ王国がバビロン軍に包囲されている状況。もう交渉の余地もなく最後の戦いに挑み果て行く覚悟を決めていた時であり、エレミヤ自身はゼデキヤに監禁されている状況でした。

38節で「彼らはわたしの民であり、わたしは彼らの神となる」と改めて告げられています。続く39節で「彼らが彼ら自身とその後の子孫の幸を得るため」にと語られますが、40節に「またわたしを恐れる恐れを彼らの心に置いて、わたしを離れることのないようにしよう」とあります。「わたしを恐れる恐れを心に置かせる」、「恐怖を植え付ける」と言い換えることのできるこの言葉はちょっと怖い表現ですね。私の感覚ですと、その為にここまでされるのはちょっとやりすぎなのではと感じてしまいます。37節に「わたしの怒りと憤りと大いなる怒りをもって」と記される程に愛する民に対する神さまの怒りが大きいものであったことが想像できます。

41節の「心をつくし、精神をつくし」の言い回しは良く目にするのではないでしょうか。申命記６章４－５節、「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただ一人である。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くしてあなたの神、主を愛しなさい。」と神さまが語った箇所が有名です。ヘブル語の〝聞け"という最初のことばからとった「シェマー」として知られている聖句です。 現代のユダヤ教の信者の方々は、朝夕の祈りの中で、「シェマ―」を唱えることを最も聖なる義務の一つとしています。 イエスさまもマタイ22章37節で律法の専門家がイエスさまを

試そうと「どの掟が最も重要でしょうか」と尋ねた時にこの箇所を答えられました。神さまはこのタイミングで敢えて重要なこの掟の箇所を自分に対しての表現ではなく、自分が愛するイスラエルの民に対しての表現として使われました。「シェマー」を心にとめ大切にしていた民にはとても心に響く表現であったのではないでしょうか。

42節以降で神さまが見捨てずに再び栄えさせる約束をされていることを王に伝えます。32章の初めにいとこのハナメルに主が臨まれ「自分の土地を買うように」とエレミヤの所へやってきます。エレミヤも主の言葉通りこれから攻め滅ばされ失うことになる土地を買い取り、買取証書を土の器に入れ、取られることのないように保存しました。エレミヤは閉じ込められてもなお、神さまの言葉を伝え続けるだけでなく、行動でも示します。

王は最後にみずから捕らえ監禁していたエレミヤの所を尋ねました。預言者として神さまからの言葉を語り続けたエレミヤを毛嫌いしつつも信用にたる人物と認めていたのだと思います。そのエレミヤから神さまの心のこもった希望のメッセージを与えられ、これから奪われる土地の証書が既に用意されていることを告げられました。王として民のために選び取った選択、神さまにより頼み守って頂くことを選ばずに、むしろ神さまを貶めて（おとしめて）しまう行いを選びとったことへの後悔と、これからの不安、絶望という暗闇の中にいた王にとってはまさに「希望の光」に見えたのではないでしょうか。

～分かち合い～

- **苦難や悩み、悲しみの中で光のような希望を与えられた経験はありますでしょうか？**

今週の聖書日課

１１月１８日（月）　コリントの信徒への手紙Ⅱ１章３－７節

3わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。 4神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。 5キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける慰めもキリストによって満ちあふれているからです。 6わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。また、わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみと同じ苦しみに耐えることができるのです。 7あなたがたについてわたしたちが抱いている希望は揺るぎません。なぜなら、あなたがたが苦しみを共にしてくれているように、慰めをも共にしていると、わたしたちは知っているからです。

パウロとテモテは、「神はあらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、・・、」4節と言われます。私たちが困難の中にある時にも、その苦しみに耐え抜いて進むことができる様にと「わたしたちの受ける慰めもキリストによって満ちあふれているからです。」とあります。素晴らしい励ましです。もし人には分かってもらえずとも、主は全てを分かっていてくださるのです。

１１月１９日（火）　コリントの信徒への手紙Ⅱ２章１７節

わたしたちは、多くの人々のように神の言葉を売り物にせず、誠実に、また神に属する者として、神の御前でキリストに結ばれて語っています。

コリント教会の中に,神さまの言葉に混ぜものをして語っている人が潜入していたようで、このような人々はパウロの語ったことを否定し(旧約聖書から逸脱した)ユダヤ教的、異教的な教えを混ぜていました。「受けたのに反する福音を告げ知らせる者がいれば, 呪われるが良い。」ガラテヤ1:6～9とあります。み言葉を純真に携えて誠実に語ることの大切さを示されます。

１１月２０日（水）　マタイによる福音書５章４節

悲しむ人々は、幸いである、
その人たちは慰められる。

悲しみの只中でお祈りに集中している時、又祈ることもできず陰で何方かが祈り執りなしてくださる時に、主の慰め励ましをいただいて平安が宿り、涙顔の中に自然に微笑みが湧いてきたのを体験された方は多いと思います。悲しみの中にも共にいて下さる主に感謝いたします。

１１月２１日（木）　マタイによる福音書２５章３１－４０節

31「人の子は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来るとき、その栄光の座に着く。 32そして、すべての国の民がその前に集められると、羊飼いが羊と山羊を分けるように、彼らをより分け、 33羊を右に、山羊を左に置く。 34そこで、王は右側にいる人たちに言う。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。 35お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、 36裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』 37すると、正しい人たちが王に答える。『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。 38いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。 39いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』 40そこで、王は答える。『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』

「いと小さき者の姿をされてイエスさまはおられます。どの様に接しておられますか？」と尋ねられた時に、日々忙しなく「すみません、その様な方に気が付きませんでした。」とお答えしてしまうことは無いでしょうか？？私たちの目と心が大きく開かれます様に主よどうぞ助けてください。

１１月２２日（金）　使徒言行録１２章３－１１節

3そして、それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、更にペトロをも捕らえようとした。それは、
除酵祭の時期であった。 4ヘロデはペトロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡
して監視させた。過越祭の後で民衆の前に引き出すつもりであった。 5こうして、ペトロは牢
に入れられていた。教会では彼のために熱心な祈りが神にささげられていた。
ペトロ、牢から救い出される
6ヘロデがペトロを引き出そうとしていた日の前夜、ペトロは二本の鎖でつながれ、二人の兵
士の間で眠っていた。番兵たちは戸口で牢を見張っていた。 7すると、主の天使がそばに立
ち、光が牢の中を照らした。天使はペトロのわき腹をつついて起こし、「急いで起き上がりなさ
い」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。 8天使が、「帯を締め、履物を履きなさ
い」と言ったので、ペトロはそのとおりにした。また天使は、「上着を着て、ついて来なさい」
と言った。 9それで、ペトロは外に出てついて行ったが、天使のしていることが現実のことと
は思われなかった。幻を見ているのだと思った。 10第一、第二の衛兵所を過ぎ、町に通じる
鉄の門の所まで来ると、門がひとりでに開いたので、そこを出て、ある通りを進んで行くと、
急に天使は離れ去った。 11ペトロは我に返って言った。「今、初めて本当のことが分かった。
主が天使を遣わして、ヘロデの手から、またユダヤ民衆のあらゆるもくろみから、わたしを救
い出してくださったのだ。」

ペトロは本当に不思議な体験をしました。日本にも同じ様な主の働きを体験をされた方がおられ、その証の著書を読ませていただき深く感動いたしました。私(たち)も日々主のご配慮のもと、お助けとお守り、お導きの内を歩ませていただいていますことを心から感謝いたします。

１１月２３日（土）　使徒言行録１６章１９－２８節

19ところが、この女の主人たちは、金もうけの望みがなくなってしまったことを知り、パウロ
とシラスを捕らえ、役人に引き渡すために広場へ引き立てて行った。 20そして、二人を高官
たちに引き渡してこう言った。「この者たちはユダヤ人で、わたしたちの町を混乱させております。 21ローマ帝国の市民であるわたしたちが受け入れることも、実行することも許されない
風習を宣伝しております。」 22群衆も一緒になって二人を責め立てたので、高官たちは二人の
衣服をはぎ取り、「鞭で打て」と命じた。 23そして、何度も鞭で打ってから二人を牢に投げ込
み、看守に厳重に見張るように命じた。 24この命令を受けた看守は、二人をいちばん奥の牢
に入れて、足には木の足枷をはめておいた。
25真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちは
これに聞き入っていた。 26突然、大地震が起こり、牢の土台が揺れ動いた。たちまち牢の戸
がみな開き、すべての囚人の鎖も外れてしまった。 27目を覚ました看守は、牢の戸が開いて
いるのを見て、囚人たちが逃げてしまったと思い込み、剣を抜いて自殺しようとした。 28パ
ウロは大声で叫んだ。「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる。」

パウロとシラスは捉えられて、鞭打たれ、投獄されましたが、賛美をして過ごす中、牢屋の土台から揺るがされるできごとが起こりました。二人は逃げることも出来たのにそうしませんでした。この出来事を通して看守とその家族が救われました。マイナスの出来事を通してもプラスの実を結ぶことの出来る主のお働きに希望が湧いてきます。

第３４課　正義の若枝が生え出でる

聖書箇所：エレミヤ書３３章１－３節、１０－１６節
主題聖句：その名は、『主は我らの救い』と呼ばれるであろう。（１６節）

1主の言葉が再びエレミヤに臨んだ。このとき彼は、まだ獄舎に拘留されていた。 2主はこう言われる。創造者、主、すべてを形づくり、確かにされる方。その御名は主。 3「わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。

10主はこう言われる。この場所に、すなわちお前たちが、ここは廃虚で人も住まず、獣もいないと言っているこのユダの町々とエルサレムの広場に、再び声が聞こえるようになる。そこは荒れ果てて、今は人も、住民も、獣もいない。 11しかし、やがて喜び祝う声、花婿と花嫁の声、感謝の供え物を主の神殿に携えて来る者が、『万軍の主をほめたたえよ。主は恵み深く、その慈しみはとこしえに』と歌う声が聞こえるようになる。それはわたしが、この国の繁栄を初めのときのように回復するからである。
12万軍の主はこう言われる。人も住まず、獣もいない荒れ果てたこの場所で、またすべての町々で、再び羊飼いが牧場を持ち、羊の群れを憩わせるようになる。 13山あいの町々、シェフェラの町々、ネゲブの町々、ベニヤミン族の所領、エルサレムの周辺、ユダの町々で、再び、羊飼いが、群れをなして戻って来る羊を数えるようになる。
14見よ、わたしが、イスラエルの家とユダの家に恵みの約束を果たす日が来る、と主は言われる。 15その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める。 16その日には、ユダは救われ、エルサレムは安らかに人の住まう都となる。その名は、『主は我らの救い』と呼ばれるであろう。

今週の聖書教育誌の週題は「正義の若枝が生え出でる」です。エレミヤ書を二カ月間、読み進めてきました。北イスラエルの滅亡を見ながら、自分たちは守られていると夢想した南ユダの王、宗教指導者、そしてユダの民は真の神への繰り返す背信の罪の結果として、北イスラエルと同じように国を失い、土地を失い、故郷を失い、ユダの民の魂であったエルサレムの神殿もバビロンにより崩壊しました。この絶望と混沌とした時代を生き残った人々の想いはどのようであったことでしょうか。**(8:3 この悪を行う民族の残りの者すべてにとって、死は生よりも望ましいものになる)** との嘆きの声に溢れていたことでしょう。すべてを失い、それが自らの内にある闇・罪であることをあぶり出され、ただ自分ではどうしようもなく滅びるばかりと立ち尽くす人々に、神は語りかけてくださったのです。
31:13 そのとき、おとめは喜び祝って踊り 若者も老人も共に踊る。わたしは彼らの嘆きを喜びに変え彼らを慰め、悲しみに代えて喜び祝わせる。

預言者エレミヤが証しする神はアブラハム、イサク、ヤコブの末代の子孫まで及ぶ約束は決して損なわれることなく、むしろ、新しい世界、**新しい契約**(31:33)を結び、(**33:6 いやしと治癒と回復とをもたらし、彼らをいやしてまことの平和を豊かに示す。**)と語りかけられるのです。

次週の主日からアドベント(待降節)となります。次週からはマタイ福音書を4月まで読んでいきます。**(32:44わたしが彼らの繁栄を回復する)**と約束してくださった神は約束(契約)に忠実な神であり、死に至るまで、十字架の死に至るまで御子イエス・キリストを歩ませ、永遠の命を与えてくださるお方なのです。捕囚の縄目のなかにあった人々も、現代を罪のなかに生きる私たちにも、救いに導き栄光に輝く希望を与えてくださるお方なのです。

本日の学びの聖書箇所は南ユダの王ゼデキヤの第十年以降の出来事です。当時の状況は列王記下に記されています。このときエレミヤはなおも **(33:1) 獄舎に拘留**されていました。

列王記25:1 ～4ゼデキヤの治世第九年の第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネツァルは全軍を率いてエルサレムに到着し、陣を敷き、周りに堡塁を築いた。 都は包囲され、ゼデキヤ王の第十一年に至った。その月の九日に都の中で飢えが厳しくなり、国の民の食糧が尽き、都の一角が破られた。

南ユダはすでに国土のほとんどをバビロン(カルデア人)に征服され、ただ丘の上の城壁に囲まれたエルサレムが最後の砦となっていました。攻め寄せるカルデア人により、神の民であるイスラエルは敗北します。**(33:5 わたしが怒りと憤りをもって彼らを打ち殺し、そのあらゆる悪行のゆえに、この都から顔を背けたからだ。)** 神ご自身がエルサレムから、神の民から顔を背けられ、顧みられないと言われたのです。ここに神の厳しい審判がありました。

(32:36 バビロンの王、剣、飢饉、疫病に渡されてしまった)(33:10 廃墟で人も住まず、獣もいない) (33:23 主が見放たれた。) エルサレムの残された人々は嘆きと虚無のなかに陥っていました。

このとき、主の言葉がエレミヤに臨みました。この厳しい審判があってこそ、回復の恵みが預言されたのでした。

33:14～16 見よ、わたしが、イスラエルの家とユダの家に恵みの約束を果たす日が来る、と主は言われる。その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める。その日には、ユダは救われ、エルサレムは安らかに人の住まう都となる。その名は、『主は我らの救い』と呼ばれるであろう。

今はまだ、荒れ果てて人も獣も住まず、暗黒不毛の世界だけれども**「32:36この都」「32:43この国」「33:10 この場所」**にイスラエルの信仰共同体は回復されると約束されるのです。

33:14～15 見よ、わたしが、イスラエルの家とユダの家に恵みの約束を果たす日が来る、と主は言われる。その日、その時、わたしはダビデのために正義の若枝を生え出でさせる。彼は公平と正義をもってこの国を治める。

やがて喜び祝う声に溢れ、感謝の供え物を神殿に携えて人々が戻ってくる。再び、羊飼いが群れをなして戻ってくる。捕囚によって全イスラエルの民を地上から姿を消すことさえお出来になる神が「報い」と「恵み」をもって破られた契約を新たにして、民のこころを悔い改めから立ち帰る民へと変えてくださるのです。何という恵みでしょうか。それは全世界の民が救われるために正義の**「若枝」**主イエス・キリストを私たちのもとに遣わしてくださる神の愛にも繋がっているのです。**(33:26 彼らの繁栄を回復し、彼らを憐れむ)** は今を生きる私たちにも等しく語られている神のみ言葉なのです。

～分かち合い～

- **あなたの願う回復の希望を思い起こしてみましょう。**

今週の聖書日課

１１月２５日（月）　ローマの信徒への手紙５章１－５節

1このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、 2このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。 3そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、 4忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。 5希望はわたしたちを欺くことがありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生みます。希望は欺くことがありません。聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。なんとすばらしいみことばでしょう。神さまあなたの愛に心から感謝致します。

１１月２６日（火）　ルカによる福音書２章１－７節

1そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。 2これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。 3人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。 4ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。 5身ごもっていた、いいなずけのマリアと一緒に登録するためである。 6ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、マリアは月が満ちて、 7初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

救い主、イエスさまの誕生です。神さまは誕生に粗末な場所をお選びになりました。でも、マリアとヨセフの愛に包まれてお生まれになったのです。それは幸せなことだと思います。

１１月２７日（水）　ルカによる福音書１８章１－８節

1イエスは、気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために、弟子たちにたとえを話された。 2「ある町に、神を畏れず人を人とも思わない裁判官がいた。 3ところが、その町に一人のやもめがいて、裁判官のところに来ては、『相手を裁いて、わたしを守ってください』と言っていた。 4裁判官は、しばらくの間は取り合おうとしなかった。しかし、その後に考えた。『自分は神など畏れないし、人を人とも思わない。 5しかし、あのやもめは、うるさくてかなわないから、彼女のために裁判をしてやろう。さもないと、ひっきりなしにやって来て、わたしをさんざんな目に遭わすにちがいない。』」 6それから、主は言われた。「この不正な裁判官の言いぐさを聞きなさい。 7まして神は、昼も夜も叫び求めている選ばれた人たちのために裁きを行わずに、彼らをいつまでもほうっておかれることがあろうか。 8言っておくが、神は速やかに裁いてくださる。しかし、人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見いだすだろうか。」

神さまは叫ぶ人を放ってはおきません。救いの手をさしのべてくださいます。しかし、人の世では叫び続けなければいけません。今年のノーベル平和賞に被団協が選ばれました。核廃絶を訴えてきた被爆者らの長い年月の叫びが届き、認められました。神さま、ありがとうございます。

１１月２８日（木）　マタイによる福音書１章１節

アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。

イエスさまの系図です。これは神さまのご計画です。長い前からイエスさまのお誕生を考えておられました。それはわたしたちを救うためです。神さま、ありがとうございます。

１１月２９日（金）　マタイによる福音書１章２－１７節

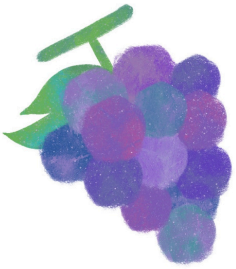
2アブラハムはイサクをもうけ、イサクはヤコブを、ヤコブはユダとその兄弟たちを、 3ユダはタマルによってペレツとゼラを、ペレツはヘツロンを、ヘツロンはアラムを、 4アラムはアミナダブを、アミナダブはナフションを、ナフションはサルモンを、 5サルモンはラハブによってボアズを、ボアズはルツによってオベドを、オベドはエッサイを、 6エッサイはダビデ王をもうけた。
ダビデはウリヤの妻によってソロモンをもうけ、 7ソロモンはレハブアムを、レハブアムはアビヤを、アビヤはアサを、 8アサはヨシャファトを、ヨシャファトはヨラムを、ヨラムはウジヤを、 9ウジヤはヨタムを、ヨタムはアハズを、アハズはヒゼキヤを、 10ヒゼキヤはマナセを、マナセはアモスを、アモスはヨシヤを、 11ヨシヤは、バビロンへ移住させられたころ、エコンヤとその兄弟たちをもうけた。
12バビロンへ移住させられた後、エコンヤはシャルティエルをもうけ、シャルティエルはゼルバベルを、 13ゼルバベルはアビウドを、アビウドはエリアキムを、エリアキムはアゾルを、 14アゾルはサドクを、サドクはアキムを、アキムはエリウドを、 15エリウドはエレアザルを、エレアザルはマタンを、マタンはヤコブを、 16ヤコブはマリアの夫ヨセフをもうけた。このマリアからメシアと呼ばれるイエスがお生まれになった。
17こうして、全部合わせると、アブラハムからダビデまで十四代、ダビデからバビロンへの移住まで十四代、バビロンへ移されてからキリストまでが十四代である。

長い長い人と人との命のつながりを感じます。わたしも人と人との命のつながりでこの世に誕生したのですね。神さま、ありがとうございます。

１１月３０日（土）　ガラテヤの信徒への手紙５章２－６節

2ここで、わたしパウロはあなたがたに断言します。もし割礼を受けるなら、あなたがたにとってキリストは何の役にも立たない方になります。 3割礼を受ける人すべてに、もう一度はっきり言います。そういう人は律法全体を行う義務があるのです。 4律法によって義とされようとするなら、あなたがたはだれであろうと、キリストとは縁もゆかりもない者とされ、いただいた恵みも失います。 5わたしたちは、義とされた者の希望が実現することを、“霊”により、信仰に基づいて切に待ち望んでいるのです。 6キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。信仰の根元は愛です。「あなたの隣人を愛しなさい」イエスさま感謝致します。いつまでも、イエスさまにつながっています。



2024.11　成人科